

私たちのいじめ撲滅プラン

小学校高学年～中学校

ねらい いじめは、人の命をも奪う重大な人権侵害であることに気づき、いじめをなくすためにはどうすればよいかを考え、行動する。

気づく

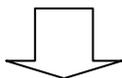
いじめの現実を知る

報道やビデオ、講演、書籍などをもとに、現実に行っていたいじめについて知る。

留意点

- ・いじめは人の命をも奪う重大な人権侵害であることを伝え、いじめを許さない強い気持ちにつなげる。

大河内清輝さん関係の資料：ビデオ「ドキュメント1000の叫び」(NHKソフトウェア)、父の手紙：「心の中へ...冒険の旅」(心力舎) 絵本「わたしのいもうと」(偕成社) など



広げる・深める

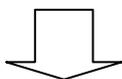
いじめについて考える

資料をもとにグループで意見交換しながら、なぜいじめが起こり広がるのか考える。

留意点

- ・いじめられる側に原因があるのではなく、いじめる側、まわりにいる者、学級の雰囲気の原因があることを理解させる。
- ・傍観者の存在がいじめを助長し、人権侵害を許す集団をつくってしまうことに気づかせる。

ワークショップ 「加害者？傍観者？」 絵本「わたしのせいじゃない」(岩崎書店) 『私もいじめた一人なのに』(「中学生の道徳1」廣済堂あかつき) 「いじめだよ」(プロンズ新社)

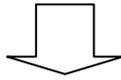


計画する

いじめ撲滅プランを考える

いじめに関する学級の実態を見つめ直す。いじめをなくすために、自分(学級・学年・学校)ができる具体的な方策を話し合い、学級でまとめる。

事前のアンケート結果を利用する。一人ひとりができることを考えたうえで、みんなでできることを考える。例：「いじめゼロ か条」など



実践する

いじめ撲滅プランを発表する

学習してきた内容や学級ごとのプランを発表し、実行する。

留意点

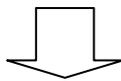
- ・プランが実効性を伴うよう、学年・学校全体に公表し、お互いの意識が高まるよう支援する。

学年集会や全校集会で発表する。

発表はプレゼンテーション、掲示物等保護者にも参観してもらい、意見交流をする。

学校の広報やホームページで活動を知らせる。

生徒会活動、委員会活動を活用して全校で取り組むこともできる。



振り返る

自分たちの生活を振り返り、取り組みを深める

プランを実行してよかった点や、改善点などを定期的にまとめる。

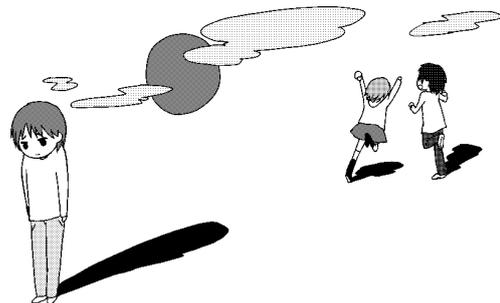
留意点

- ・帰りの会や学級活動で定期的に振り返り、継続的な取り組みにさせる。

取り組み後の保護者や教職員の声を子どもたちに返す。



いじめ撲滅プラン(学級スローガン)の例



【学習を進めるにあたって】

- ・自分たちの身のまわりにあるいじめに目を向けながら、学級・学年・学校など集団としての取り組みに広がっていきたい。
- ・教職員の共通理解を図り、いじめをなくす取り組みが学校全体のものにすることが大切である。